

主幹中原四郎



第二卷
第二月

〔明暗社〕



卷頭言

明暗第二年二月號

同胞ヨ

殊ニマタ

飢餓窮乏ニ泣イテヤル

同胞ヨ

維新決シテ七十年皇國ノ悲境今日ヨリ甚シキハナシ

皇統茲ニ三千年國民太古ヨリ皇室ニ從ヒ奉リテ君民

具ニ榮辱ヲ共ニシテ國家ノ命脈ヨ永遠ニ負擔スル大

和民族ニ實ノ血脈ハ脈々トシテ流レ榮エテ今日ニ至ル

國民同胞ヨ現下ノ非常時ヲ打開シ國運ノ悲境ヲシ

テ國家生命ノ復活ヲ策スノ使命ニ生キヨ

國民同胞よ此歴史の大業に参加せよ

盟誓

建國の本義ニ基キ採取セキ新日本建設ヲ誓フ

綱領

一我等ハ合法的國民運動ニ依リ金權支配ヲ廢絶シ以テ天皇政治ノ徹底ヲ期ス

二我等ハ資本主義機構ヲ打破シ國家統制經濟ノ實現ニ依リ國民生活ノ確保ヲ期ス

三我等ハ八種平等資源衡ニテ原則ノ上ニ新世界秩序ノ創造ヲ期ス

新日本國民同盟
日本國民同盟
同盟
旗

日本國民同盟

東京市日本橋區災救橋樑町五丁目別館

新日本國民同盟本部

電話日本橋二一五七番

全日本國民同盟の運動方針

全日本國民同盟書記長

中原 四郎 記

全日本國民同盟は自らを國民の党たらしめべく進みつゝある

昭和七年九月二十八日正午に孤々の聲を挙げ直ちに小名濱に演説

會を開き湯本に支部を置き各地各村に研究會を開き國民窮乏

巨款に關する讀願署名運動を起し正午にその促進國民

大會を招集し代表を上京させ我黨の指導團體新日本國民同

盟と共に目的の貫徹に猛進運動を開始するや無産勤勞大衆の渴望

は期せずして我黨に集結せしむるに當り地方に於ける唯一の戰

闘的一大堅城を建設し資本家並に既成政權の諸公を以て愕

然色を失し其處に慄するの狀勢に至つた。

日本をして有史以來今日の非常時難に誘導したその一切の根

源は資本主義である。日本資本主義の發展其は多年封建鎖

國より一躍國際關係に入り、日本は「進小たる」文明文化も政
米先進國に追隨し、以て其の侵略政策より祖國を防護せんが
ために取らざるを採用了たる直輸入制度にして、其の發展の過程
に於て國家權力と抱合し、國家權力の下に政治機構に於ても法
律制度に於ても教育思想に於ても日本を資本主義的に國際化す
る事に全力を傾注して來たのである。

其の結果は日本の國民性を極端なる個人主義にし、全權萬能の「惡
弊」を強度にし、益々貧富の差を甚くして、今や國民の九割は其の窮
乏に陥れ、將に破滅亡國の危機に直面せしむる其の一切の禍根は資
本主義である。

然し資本主義は無限の生命を持し、永遠に發達する制度ではな
い、それは既に明らなる如く、資本主義は一部少數の資本家のみ
が國民大衆を侮賤し、搾取し、財の蓄積に個人的満足を得

るに過ぎざるの組織で、内部的幾多の矛盾を包蔵する資本主義
は何時かは最後の行詰りに當面し、絶望的崩壊期に到達する運命
にある。我國資本主義も將に第三期大恐慌に直面し、一路山雨飄
の過程にまがきつゝある、今其の二三の主要點を挙げて見る。

一 農村生活の破綻

今や農村に於ては、小作自作は小地主と何れも其の生活は最般
の破綻に瀕し、后る農産品の下落、肥料、農具、生産原料の
騰貴など、日常生活品の高價負擔に課税の重荷は農民も
して過重の借金負債を擔はし、現在全國農家の負債額
は六十億と言ふのである、巨額に達し、然かもその完全「債農」
ばかりか、利子の支配さへ不可能の状態となり、借金棒引き、
借金モラトリアム以外に農村救済は絶對的な破綻状態にある。
一 失業者の増大と労働者生活の窮迫

工業日本も此に失業者の洪水である。行詰れる資本主義は産業合理化に依る操業短縮、生産の機械化、産業集中などに依る生産の制限等、自己擁護の犠牲に労働者を供し、現に四百萬を超ゆる失業労働者が工場を退はれ路頭に失業者の洪水杯を嘗みさせられて居る。

斯かる現状は、純に國家産業を萎縮し國富を減少する。他國民思ひ知る要なし。失業労働者の労働条件を益、少費化し労働者生活に間斷なく窮迫して窮迫して行く資本主義は、今や如何に國家國民に其大の損害を與へ如何に害果的な存在である事を知得てあろう。

一 小商工業者の没落

農民労働者一般と言ふ廣汎な國民層が購買力を喪失した。今日、小商工業者が致命的な打撃を受けて、言はば當然

の歸結である。然かも其の上被等は金融資本乃至大工業大經營に壓迫せられ窮迫せられ、今や算も計も立てず倒壊し、あり

一 國家及地方財政の破綻

インフレーション政策は全然償還財源の見込なき公債を發行して居る赤字の現るその個体として破綻なるに世間的共通事なりとしての赤字公債は國家並地方自治体の財政を急激に破綻するものにして其の結果は益、物價を高騰して前途を暗昧たげしめ、以國民生活の不安に拍車をかけるものである。

一 暴落金融資本制

資本主義は工業資本産業資本の黄金時代を過ぎ、今やその王座には金融資本制が暴落の如く居座りて居る。金融資本制は農民労働者に對する搾取抑圧の過程であり、小商工業者に對する冷遇なる征服の過程であり、産業資本工業資本

本に對する併存の過程であるからして資本主義の最高峰は金融資本家に一握を握るに至るに其の暴君振りを發揮して居る。かかる國情をふしきものとしてせむべし祖國日本は日本國民は一部金融財閥の奴隸として居從せしめられ其の依て來るものは民意の縮圖であり國民の枯死であり國運の衰亡である。此の全日本國民同盟は以上の如き國家的國民的危機の必然的所産として結成せられたるして全國の同志と親密なる友交の下に相呼應して資本主義に依て個人的擧取と抑圧創蝕と窮乏絶望と自殺發狂と罪戾に汚辱され盡せられ破滅と國へ導かれつゝある祖國日本をして是國の本義に基く擧取なき新日本の建説に邁進すべき意の大使命であり我等同志の血盟精神である。建國の本義に基く擧取なき新日本の建説は第一合法的國民運動

に依り金融支配を廢絶し以て天皇政治の徹底を期す事である。皆金が其の儘に腹を支配する金融政治こそ祖國と現下の破局に導いた一切の根源である。金力を持てる者即ち權力者と言ふ現在の政治支配の建前は天皇と國民の間に國民を抑圧す亦擧取なき一切の介在的存在を許容せざる天皇政治の真精神と純潔に相成するものである。

第二資本主義結構を打破し國家統制經濟の實現に依り國民生活の確保を期する事である。

資本主義の正体と現在の役割とは既に我等の検討するところである。天皇政治の徹底は資本主義打倒の上のみ實現される現在の如く國家の生活は一部のみ其の本義に齟齬せられ然るもその個人の利潤は資本に依て自由に左右せらるる無政府的機構を打破し一切の生産機關を天皇に依る産業大權の發動下に直屬する擧取

なも國家統制經濟の實現を期するものである。以上の如く、大業は陛下の大御心を體し現下の國情に對する正しき認識の中より燃え上る愛國心に結ばれた巨大なる國民運動に依つてのみその實現運動を期する事が出来るのである。

然して我等の謂ふ所の國民の党とは天皇政治の徹底を目指し新日本建設の大業に地位を占め、財産も生命も皆捧げる同志の結合体であり、總て其の構成要素の階級的に抱えざる党と言ふ事であり、それは又國家及國民の全體的利益を最も大鏡に最も忠實に代表する所の政党である。

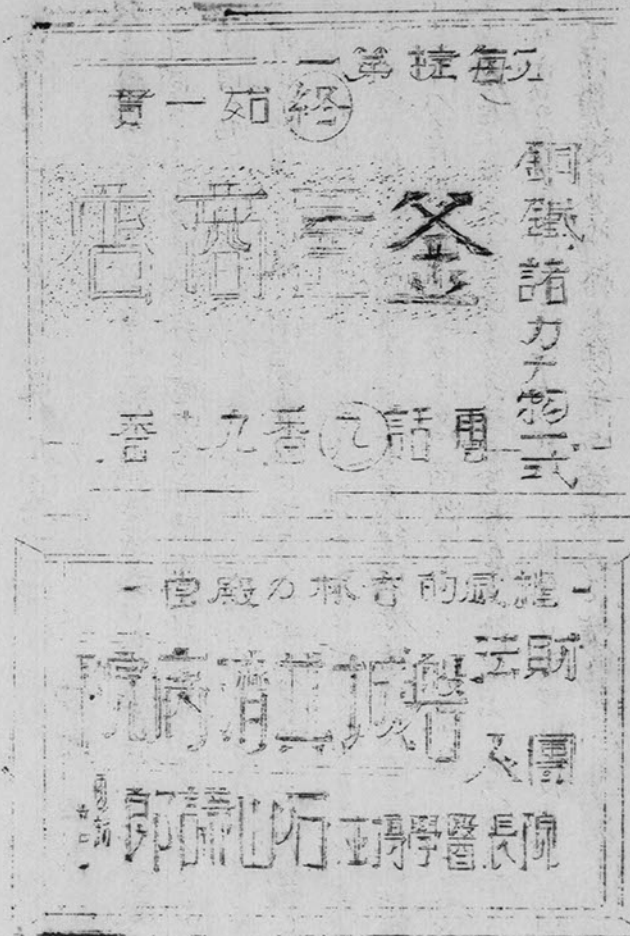
斯かる見地に立ちて我等は既成政党に對しては寸毫も假藉することなく、ブルジョア政党は一部少數特權階級資本主義擁護の支持的存在たる依り此れが打倒を期し、共產党は我國情及國家の獨立性を無視し階級的独裁を期するものと認め、徹底

的独裁を期し、社會民主主義所謂現在無産階級に對してはその主張は議會を通じて社會主義を實現するにあり、言ふも其の本質は自由主義一あり幾多の名に依りカマルラシとされ、全權支配の擁護者の役劇を持つ者と認め、その粉砕を期し、ファシズムに對しては崩壊せんとする資本主義擁護の立場に起る強權独裁政治と認め、徹底的に反對する所の党である。

我々日本國民同盟は中央新日本國民同盟の指導下に於て其の對策の通過を通じて自らを斯かる真境に於て、國民の党へ入るべきと其過程を遂げ、あるものがある。

11月26日の政變は、吾等が充分準備するを待て

1933. FEB. 2nd. AT HOME



續——日本無產階級見

中原 四郎 生

民族と民族が對立して闘争を起し強き民族は弱き民族を支配下に
 持つ國家を形成す國家と國家も亦絶えず闘争し國家の境に常に
 對立し闘争的にも經濟的にも。何に對立し闘争するか？一言にして
 盡く利害相反す故に同一國家内に於ても利害相反する者は對立し
 闘争するは必然の結果である。然して強きものは強き權力を以て弱き
 ものを支配し強きと弱きと酷使すは資本主義經濟機構は發達するに違ひ
 なく。乃至は自ら豊饒化する中階級を形成し一階級たる資本家
 地主と無產小市民小作民との對立たる有產と無產との階級を作り
 最も利害の反する階級を生む。茲にその階級は利害の相反する點に自
 己の生活擁護のため激しく闘争を起す。然るに有產側には強き權力
 を持つ。日く政治家日く学者日く軍隊日く法律日く財力と認めこの

資本主義は最高進歩の階級支配階級の自由になりて被支配階級無産者はその階級を以て階級にその權力の暴壓に呻吟する政治的にも経済的にも明治維新の改革に依り封建制度は欧米資本主義制度を採り總べての産業は資本家の手に對奪せられ其の弊弊は遂に今日の非常時を現出し以の儘に推移せんか祖國日本をして收拾し得べからざる窮極に迫らしめたる支配權力の暴壓他何物でもない明治初期の改革より今日迄人類生存と辭くべからざる階級に於ける政治社會運動の跡を訊ぬ人（前號に於て東洋自由党止止止）

社會主義 明治維新は我國資本主義發展に新紀元をうへると同時に労働運動も亦燎原の火の如き勢力を以て拡大し各所にその勢力を以て階級闘争は盛に行はれ然し三十年は反動期に入り三十三年の政治暴変は我經濟界に何等與へる所なく三十四年に於ける全國に亘る金融恐慌は經濟界並工業界を極度の不況に陥らしめ然して此の經濟界一極の下落と政府の對其の圧

迫的政策は明治三十三年三月治安警察法の制定となりて一時猛烈な極はめた労働運動に二大打撃を加へ此を地下に堂々せしめたかくしし運動の中心は再び労働運動より離れて社會主義乃至政治運動に轉向した

これよりさき明治三十一年十月岸本能武太村井知至等に依て開設せられし社會主義研究會は三十三年治安警察法の制定さるゝと同時に前記の單なる研究者は何れも脱退して純粹の社會主義者からなる社會主義議會が組織され翌三十四年五月廿日此の社會主義議會から社會民主黨は生れたのである

同黨の創設者の主なる者は元自由黨の左翼翼章徳傳次郎並にキリスト教の進歩派と目せらるゝ安部磯雄片山潜亦下尚江西川光次郎河上清次郎等六名で組織し同黨は雑誌「労働世界」を其の機關紙とし先其の臨時號に於て宣言書を發表したが其の内に八ヶ条の理由と二十八ヶ条の實際運動の綱領とを提示して居る

同黨の特色は従前の諸政黨と異なり旗幟判然としたる社會主義的綱領を不完全ながらや體系的に具備したる所にある

かくの如くして生れ出たる社界民主党の其の使命は一日を保たず、即日解散の憂目を見たり。即ち時の政府たる伊藤内閣の内務大臣永松謙澄は治安警察法に依て結社禁止解散の命令を下したものであった。同時に其の宣言を掲載した。毎日、報知、朝日新聞等は、何れも發賣頒布を停止せしめ、且罰金刑に處せられた。かくして我國無産階級解放の重任を負つて起つた眞の無産政党は、一日の存続をも許さずして無残に打ち砕かれたのであった。

社會平民党

伊藤内閣の倒れて桂内閣の成立を以て同年六月三日、前記民主党の創立者諸氏に依て再び社會平民党の結成が企圖されたが、此れ又即日禁止され、その後同年十月になつて社會主義協會なるものが成立するに及んで、其の後の社會主義運動はしばらく政治運動に依り再び教育的傳道の方面に轉向する事となり、當時露西亞の極東政策は專ら遼東半島に集中し、朝鮮國境

を邊に於て日本の日清戦争に於ける既得權益を侵害するに及んで、國論が激し、愛國の熱情は開戦の輿論に集中されて上下共、敢て新十年の深恨を晴とせんばの時様なりと爲り、社會主義の潛入すべき寸分の隙もなく、僅かに平民新聞に依て一部分の讀者間に報導せられて居るに過ぎざりき。

然れ共微弱なる平民新聞は日露開戦中、露西亞社界民主労働党の第一面一九〇五年八月ベルギーブラッセルに開催せらるる、其の分派後、ボルネーキにメッセージを交換して日露戦争は東洋に於ける資本主義の衝突であるといふ意味を述べ、又一九〇四年アムステルダムに於ける第二インターナル第六回大會に日本の代表も初めて出席し、其の大會の壇上に露西亞の代表員デハーフと、我が片山潜氏とが握手した。推訪は餘りにも世人周知の事にして、他國代表ミランは大會より歸國直ちに佛國下院に於て日露戦争に對して佛國として一中立の嚴守をすべきを力説して、同國內の親露派の輿論を緩和し、バルチック艦隊として喜望峯を迂回せしめたるは英國の及守同盟の履行以外に斯う

した社界主義 謂ふ所の第二インターナショナルの働きが、たゞとて傳へられたが、陸軍将校の〇〇〇氏も露都に於てホルセーキーに相當巨額の資金を興へて戦争反對を募り、一〇五五の革命を誘致するの相當の要素を興へたと云ふ兎に拘に日露戦争をして、俄に國に勝利を興へしめた。表面にはかくしに間接的な大きな力を興へて居た事は見逃せない。かくして明治三十四年の露清より日露戦争最初の終結する迄は僅かに平民政に依て衣せられて居るに過ぎなかつた。

國家社會黨

明治三十八年八月日露の講和談判が局を結ぶ「屈辱條約」に就て戦勝の夢破れ、國民等皆悲憤慨嘆するに及んで、例の東京市中「焼打事件」等起り各地に國民大會は起り、騷擾の起つたとき、山縣、安山、村久、即ち板垣、一、斯波、貞吉等、に依て國家社會黨は組織せられた。

其の主義とする所は主として富豪の専横を抑制せんとするもので、皇室中心主義の國民運動で、今日の國家社會主義とも趣を異にして居る。

其の説くところは、吾代に於ける我皇座が、或る意味に於ける社會主義の實行者であつたから、我國民は宜敷に皇室の力に依り富豪の専横を抑制すべきしとなつた。斯うした事件後に、自分の國家主義的思想相合を取り入れ、社會政策的な政策の出現を見たのは、世にも故なきとは言へない。同黨は後に東京市電車の上反對に日本社會黨と提携して、多少の活動もなした事、特筆せねばならぬ。其の續なり。即ち三、五、華徳の大逆事件後、皇室の壓迫に依て有耶無耶の由に解散した。

日本社會黨と日本平民黨

明治三十九年一月、細田三崎町平民會、ミルクホールに森近、運平、西川、光三郎、樋口傳兵衛等相席り、綱領「普通選舉の期成を圖るを以て目的とすること」を唯一にして日本平民黨の結社居をなした。次で堀利彦、深尾韶氏等、

新に日本社會黨の結社を提出した。

日本社會黨の綱領が「社會主義の實行を期す」と言ふに於いたに係はらず時の政府は頗る寛容の態度を執りその結社を受理した。

此處に於て日本社會黨とは合同し日本社會黨の合同第一面が大會が二月二十四日東京朝日新聞昭和三年四月二日發行は三月三日と報す京橋區木挽町如藤病院内に開き証議員片山潜、堀利孝、西川光次郎、山崎石川高郎、大杉策、木村近等、拾三名を選任し二十七日評議員會を開催し堀、西川、村近の三名を選舉し幹事となし九ヶ条の党則を作つた。同党は先の党則を改訂して第一に本党は國法の範圍内に於て社會主義を主張すにありた。

結党當時の党員数は僅に式百名に過ぎなかつたが演説會に講演に地方遊説に研究會に談話會にその運動は庄氣激漸たるものがあつた。就中同党の社會的活動の第一に挙げらるべきは東京市街

電車價上反對運動であつた。即ち前右三面に亘つて市民大會を開き大に反對の聲勢を挙げその爲の西川光次郎、樋口傳、山口義三、大杉策等十名は兎徒情狀罪を以て拘引せられた。

翌四月二十二月十七日神田錦旗館に第三回大會を開いた同大會には社會主義運動として議會政策と直接行動との併用を主眼とする構想と議會政策を排して直接行動のみとする幸徳秋水及議會政策のみを高唱する田添鐵三等の各修正案が提出せられ大論戰の結果田添案三票、幸徳案二十二票、田添案十八票、丁原案はともかく通過採決せられ無事に大會は修了した。然るに大會記事が平民新聞に掲載せらるや政府は該記事件幸徳の演説筆記並大會議事案を以て朝憲を篡改するものとして平民新聞の發賣を禁止し編輯發行人たる石川三郎郎を起訴し次で同月二十二日政府は同党の結社禁止を命じた。斯く我國に公然と組織され活動を繼續して来た日本社會黨

も政府彈圧の下に僅に一ヶ所にして解散したのである。

日本社會黨禁止後、に於ける社會主義運動は再び平民新聞を以て
とする宣傳に移つたが、政府の彈圧愈々烈しく遂に最後の孤壘たる
同紙も遂に四年四月中何れに於ける廢刊の辞を最後に解散の止む
なきに至り、他方戰後の經濟界は刻々不況に趣き、労働者の組合運
動も不振に趣き、大正三年鈴木久治氏の友愛會組織程度にて社會主
義的政治運動の興へべきものなく、加へて四十三夏突如として一世を震
駭せしめたる所謂幸徳一派の大逆事件は官憲に無二の口實を與
へ、爲めに凡ゆる社會主義運動は全く屏息せしめらるゝに至つた。

其の後十三年間大正七八年改組戦争の結果我國經濟界が異常
の活氣を呈するに及んで労働の攻勢時代も出現し、労働運動の
亦新装の下に活潑な運動を展開するに至る迄は實にその雌伏
期であり暗黒時代であつた此の時代には僅かに實文社に依り命

脈を保ちその間四五の結社はあれ共、概ね實件なき結社にして何
等活動の域に至らずして盡く禁止せざる。四十一一年の赤旗事件及四十三年
の大逆事件をして大正の終末期迄は全くの沈黙期と言へよう。

平民協會

現インヂイェット聯邦最高公民委員會顧問片山潜氏に依り明治四十年十
二月二十二日結社同年七月禁止解散とす。

社會黨

同じく片山氏に依り明治四十年十月二十五日結社同年七月禁止

獨立労働党

寺内大少郎氏に依り明治四十四年十二月七日結社同年九月禁止

日本労働党

福田狂三氏に依り大正三年五月二十五日結社六月十五日禁止

日本平民党

福田狂三氏に依り大正三年六月十五日再結社同年七月一日禁止

【此稿未了】

プロペフと推進機

拙作清之丞

前張より續く

社會的に役割を果す人間をもとに解析すれば己の欲求と社會の欲求と誰しもが一致する人生觀と世界觀が一致したる認識を持ち人間以の人間にして創造の第一は死の前にはこゝろを置くものである。

福なる社會的人物と應酬するものである。その人達がその人の持つ能力と役割への献身、これこそが最も重大な且考究を要するものである。

社會の進化過程の推移、破壊創造を通じての過程に於ても亦自然現象に於て是れは必然なるものなり。水は凡そ度止は單に昇進し膨張の過程を辿るが一度の上昇に依り再度に達した時上下に煮えくりかへる飛躍的現象を呈する事を知らず居る。更に又大水が倒れんとする時は隆然として

直立して居るであらう。

だが最後の斧錢、最後の微弱なる方であつてその段階に到達せる時將に飛躍的現象に倒れるのである。

それより人間の身体の外より如何原因に依るも最後の心臓麻痺、癱瘓しには死ねるものではない。一死因となす最後の心臓麻痺こそが飛躍的取後の死因であり此等一切の過程に於ける如何なる役割をもが全体の部分的役割であり此の過程に身を以て投ずる者がこそが決定的役割を果し得るものである。

筆者追白

小生素より健康に恵まれ居る者。去る一月二十日急性肺炎を起し

磐城共済病院に入院。一週間経過思はれから、近日漸く快方に伺

ひ。ペンも握るも根氣續かず。誠に失禮する次第で恐縮です。

編輯を了へて

編輯室より

貧窮を救明暗も第2年生になつた

初月發行したい又とうしなけねばならない約束であつたが又々正月雜
をせし處で誠に申議がありません本月からは間違なく發行を続け
ますから正味いからす

無産者見れば多き面より考へる傳本の力や或は幾分の間違ひはあ
がもそれまでかたしや交付の點はゆとりを下さい追々體を重なり近年の
政治研究會以後の記述には近生も一兵費といふ加して居りやん故に最大限及
に誤謬をなくするべく出来るだけ

(西原主幹)

おかしき國民同盟の方針は同盟を以て政友會の別働隊の○○代議士(西原)
の仔分なり当のその乱れ承ふる點はゆとり以下の降下の存在をかくはんものに非
ざる事を明瞭に知つて居るにためにもさういふものてす (同 山三)

思は外 福は外の夜 満屋に於て

福嶋縣石城郡湯本町字三並三四一番地	發行所	福嶋縣石城郡湯本町字三並三四一番地
品賣非	中原四郎	品賣非

SHOWA 8 February 1937

三猿文庫